

前回の問題の解答です。できましたか？

【一】 次の文に「一」（横線）を書き込み、文節に分けよ。

① むすめは一、さらに一聞かず。（娘は、まったく聞き入れない）

② 人々の一、花一、蝶やと一めづるこそ一、はかなく一あやしけれ。
（人々が、花だ、蝶だとかわいがるのは、あさはかで奇妙なことだ。）

③ 限りなく一かなしと一思ひて一、河内へも一行かず一なりにけり。
（この上なくいいと思って、河内へも行かなくなってしまった。）

〈復習〉

・ことばとことばの間に「ネ」を入れて区切ってみる。

・文節の中に、自立語は必ず一つしかない（＝複数存在しない）。付属語はあつたりなかったり（ある場合も一つの場合もあれば、複数ある場合もあります）

【二】 次の文に「一」（横線）を書き込み、単語に分けよ。

① 昔一、紀有常一といふ一人一あり一けり。（昔紀有常という人がいた。）

② 京一へ一帰る一に一女児一のなき一のみ一ぞ一、悲しび一恋ふる。
（京へ帰るのに娘がいないことだけを、恋い悲しむ。）

③ 野山一に一まじり一て一、竹一を一取り一つつ一、よろづ一のことに一使ひ一けり。
（野山に分け入って、竹を取っては、いろいろなことに使っていた。）

【三】 次の文を単語に分けて、自立語と付属語に分類し、それぞれ答えよ。

① うつくしき一もの一、瓜一に一書い一たる一稚児一の顔。
（かわいらしいもの、瓜に書いてある子どもの顔。）

自立語「うつくしき・もの・瓜・書い・稚児・顔」
付属語「に・たる・の」

② 三河一の国一、八橋一といふ一所一に一至り一ぬ。
（三河の国、八橋という場所に着いた。）

自立語「三河・国・八橋・いふ・所・至り」
付属語「の・と・に・ぬ」

〈復習〉

・自立語＝それだけで意味がわかる言葉。

・付属語＝それだけでは意味がわからない言葉。

いかがだったでしょうか。前回は書きましたが、単語に分けるという作業は正確な口語訳をする上で欠かせない作業です。完璧にできるまで練習しよう。